

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2019年3月30日												
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、日比麻音子 寺川祐介（TBS 社会部記者：留学生問題を取材）														
検証テーマ：EU 離脱協定が3度目の否決、オープニング、米朝首脳会談、東京五輪フラッグツアー、 【特集】“消えた留学生”を探してみると、【特集】中国最先端都市の光と陰														
報道トピック一覧 <ul style="list-style-type: none"> ・ EU 離脱協定が3度目の否決 ・ オープニング ・ 米朝首脳会談 ・ タイで日本に向けた振り込め詐欺の容疑で日本人を逮捕 ・ 東京五輪フラッグツアー ・ 豚コレラ感染拡大 ・ 気仙沼市と離島大島を結ぶ橋が完成 ・ 青森県で八甲田ウォーク ・ 皇居乾通りの平成最後の一般公開 ・ 海外交流の男子高校生2人がオーストラリアで死亡 ・ 渋谷区でのアポ電事件の逃走車両が大阪府内で発見される ・ 【特集】“消えた留学生”を探してみると ・ 【特集】中国最先端都市の光と陰 ・ スポーツ報道 														
放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨 <ul style="list-style-type: none"> ・ EU 離脱協定が3度目の否決：結論→特に問題なし EU 離脱協定が3度目の否決となったこと、EU 離脱反対派が企画した EU 離脱を皮肉るパーティーと、EU 離脱派によるデモ行進の様子が取り上げられていた。このトピックに当てられた時間は182秒で、概要および離脱反対派、離脱派のそれぞれに焦点の当てられた時間配分および比率は以下の通りであった。 <div style="text-align: center;"> <table border="1"> <thead> <tr> <th>トピック</th> <th>時間 (秒)</th> <th>比率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>概要</td> <td>33</td> <td>18%</td> </tr> <tr> <td>離脱派</td> <td>83</td> <td>46%</td> </tr> <tr> <td>離脱反対派</td> <td>66</td> <td>36%</td> </tr> </tbody> </table> </div> 放送法上は特に問題は見られなかった。 <ul style="list-style-type: none"> ・ オープニング：結論→特に問題なし 			トピック	時間 (秒)	比率 (%)	概要	33	18%	離脱派	83	46%	離脱反対派	66	36%
トピック	時間 (秒)	比率 (%)												
概要	33	18%												
離脱派	83	46%												
離脱反対派	66	36%												

番組の冒頭で金平キャスターが「明後日新しい元号が発表されます。天皇の生前退位に伴うものですが、大正や昭和、平成とは元号の意味合いがちょっと変わったかもしれませんが、平成の元号を発表した故小渕官房長官はどこか奥ゆかしさを感じられましたが、今回はどうなのでしょう、言うまでもなく元号も政府のものではなく、国民のもので。」とコメントしていた。なお、新元号を巡る動きについて言及されたのは番組を通じてこのシーンのみだった。このシーンの時間は 24 秒で、放送法上は特に問題は見られなかった。

・米朝首脳会談：結論→特に問題なし

先月の米朝首脳会談でトランプ大統領が金正恩党委員長に対し、北朝鮮の核兵器などを引き渡すよう求める文章を手渡していたとロイター通信が報じたとのことが伝えられた。このトピックに当てられた時間は 112 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・東京五輪フラッグツアー：結論→特に問題なし

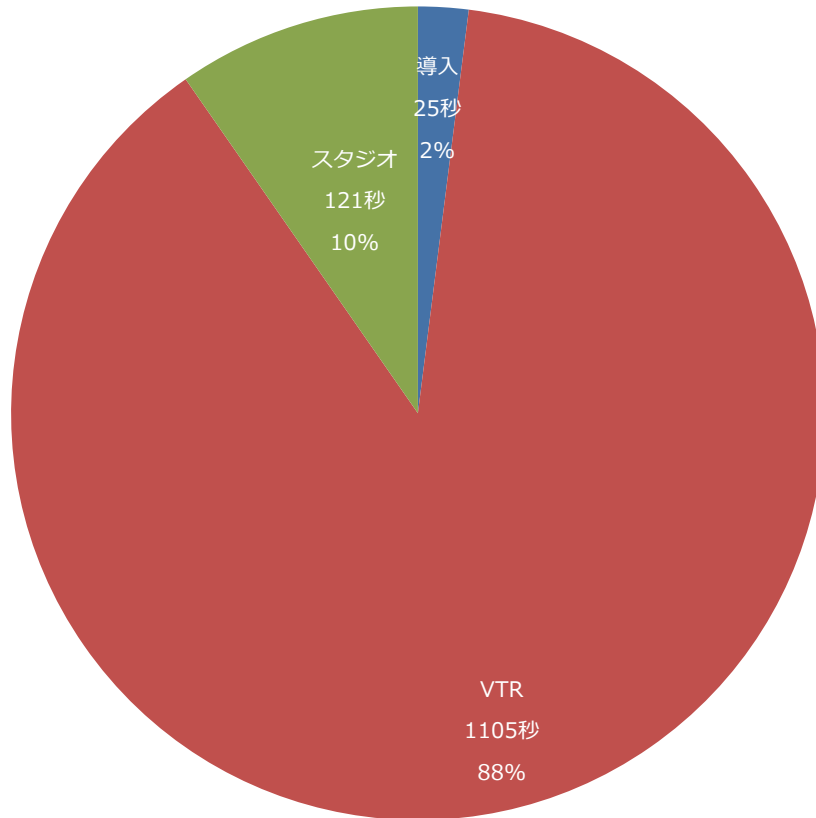
2016 年 10 月に東京の小笠原村からスタートしおよそ 2 年半をかけて、東日本大震災の被災地など 47 都道府県を巡ってきた東京オリンピック・パラリンピックのフラッグツアーが今朝 JR 東京駅に到着し、ツアーの終了を記念するイベントが行われたこと、イベントでは東京都の小池知事を始めスペシャルアンバサダーの TOKIO や今年 1 月に現役を引退したレスリングの吉田沙保里さんらが出席したとのことが伝えられた。

小池都知事の「これまで、フラッグツアーで全国の方々にオリンピック、パラリンピックへの期待を膨らませていただいて、これからの新しいスタートでさらに大会への気運を醸成していきたい、と。」というコメントが取り上げられていた。

このトピックに当てられた時間は 81 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】“消えた留学生”を探してみると：結論→特に問題なし

東京福祉大学で 1400 人の留学生が所在不明となったことについて特集されていた。この特集に当てられた時間は 1251 秒で、時間配分は以下の通りだった。



特集の VTR では以下に朱記したように留学生が取り上げられていた。

"職員「こんにちは」

ナレ「訪ねて行ったのは、都内にある古いアパートの一室。ここでは、ネパールからきた留学生たちが共同生活をしている。」"

"記者「今は、こう三人で生活しているんですか？」

ネパール人男性「私は別のところに移りました。」

ネパール人男性「二人一緒です」

記者「だからベッドが二つなんですね。」"

ナレ「アチャレ・ラムジ・プルリドさん。29 歳。2 年前に来日し、この春日本語学校を卒業した。学費や来日のためにかかった費用は、およそ 150 万円。両親や親せきから借りて集めたという。」

"アチャレさん「5 年か、6 年して、6 年、働いたら、国帰ったら、会社作る。」

記者「それが今の夢？」

アチャレさん「に。」"

ナレ「福祉関係の職に就きたいというが、日本語能力はまだ十分ではない。そんなアチャレさんは 4 月から、東京福祉大学の研究生になる。」

アチャレさん（吹替）「大学進学するには、レベルが足りなくて、でもここなら良いんじゃないかと。1 年間準備をして大学に行こうと思います。」

ナレ「東京福祉大学の研究生は、学部生とは異なる非正規の留学生だ。在籍者は 3 年間で 5700 人に上る。しか

しこのうちおよそ 1400 人が所在不明になっていた。彼らの行方を追った。」

記者「こんばんは、」

ナレ「研究生と呼ばれる留学生が、3 年間でおよそ 1400 人所在不明となっている東京福祉大学。今週、文部科学省と東京入国管理局が合同で立ち入り調査した。」

研究生「一クラスは、40 人ぐらいいましたけど、卒業するときほだいたい半分くらい。」

ナレ「東京福祉大学の研究生は、学部生になる準備などの目的で受け入れている留学生で、原則 1 年間のコースに通う。非正規の留学生のため、定員は無い。」

ナレ「増え続ける研究生に教室が追いつかず、周辺の住宅街、10 数か所に点在している。中には・・・」

寺川祐介記者「銭湯 2 階の教室に今、研究生たちが入って行きます。」

ナレ「銭湯の 2 階や、賃貸アパートまでが教室などに」

ナレ「これは、私たちが独自に入手した内部資料。3 年分の研究生のリストだ。除籍になった理由の欄には、所在不明の文字が並ぶ。分析すると、ある年の所在不明者は、ベトナム・ネパール・、スリランカ、ミャンマーの順で多いことが分かった。なぜ研究生は所在不明になったのか。」

"記者「あのすいません。えっと人を探していて、〇〇さんってここにはいますか？」

女性「もういないの。」

記者「あっいないですか？」

女性「はい」 "

"ナレ「今、どこで、何をしているのか。」

記者「えっとここに住んでいない？」

男性「あー前は住んでいたんだけど」

記者「あっ前は住んでた。」 "

ナレ「私たちは、リストを基に 3 か月にわたり、所在不明の研究生を探し回った。」

"記者「スペル見えます？これ。」

男性「それネパール人じゃないです。」

記者「じゃあネパールの人はいたことない？」

男性「全然ないです。」

記者「あっ全然ないですか？」 "

ナレ「リストに載っていた都内のビルを訪ねると、」

"記者「こちらに〇〇さんって方って、いらっしゃいます？」

男性「あー事務所だから、こちらにおそらく」 "

ナレ「ビル 1 階の電気工事会社に聞くと、留学生たちは、隣の部屋で暮らしているという。玄関先には大量の靴が散らばり、表には、洗濯物が干されている。」

電気工事会社の代表取締役「はっきり人数はわかりませんが、だいたい 4, 5 人は、います。」

"取締役「よお一つ。ちょっとすいません」

記者「こんにちは。〇〇さんって方では？〇〇さんですか？」

男性「いないですね。」

記者「いない、あのもともこの場所に住んでいらっしゃったわけではないんですか？」

男性「ないですね」 "

ナレ「現在ここには、ベトナム人の学生が 4 人で住んでいるというが、所在不明となっている研究生はいなかつ

た。100件近くの家を訪ね歩いた末、今月に入って、

記者「こんばんは、あのこないだも来たんですけども、〇〇さんは」

ナレ「所在不明とされる本人に会うことができた。数年前にモンゴルから来日し、おとし東京福祉大学の研究生になった。」

"所在不明とされるモンゴル人「クラスの方は、7、8人やめて、全部国に帰って。最初入った時も勉強やりたいと思って入って、感じの勉強やろうかなと思って、入るのが簡単、テストも簡単だし、自分の国とか、自分ができるだけの会話書いてこれで、できた。」

記者「それだけ？」

所在不明とされるモンゴル人「そう。クラスは小さなマンションの3階。1階で店」 "

"記者「アジアの料理の店？」

所在不明とされるモンゴル人「そうアジアの料理」 "

ナレ「通っていた教室は、アジア料理店が入るビルの3階。ここで25人ほどの研究生が授業を受けていたというが。」

所在不明とされるモンゴル人「入ったら全然、漢字の勉強しない。コピーの紙を渡して、この漢字の意味を書いてくださいぐらいの」

"記者「大学はいいところでした？そんなでもなかった？」

所在不明とされるモンゴル人「そんなでもない。意味は無いね」

記者「もっと本当はどうしたかった？」

所在不明とされるモンゴル人「ちゃんと勉強やったら、大学に入れるかなって思ってた。お母さんは日本で大学入って卒業してくださいって」 "

ナレ「8カ月で研究生をやめ、今は引っ越しの仕事をしている。研究生の実態はどうなっているのか。東京福祉大学の現役の教員が、取材に応じた。」

"記者「研究生っていうのは、どこから来るんですか？」

現役教員「ほとんどの学生っていうのは、国内の日本語学校になります。」 "

ナレ「研究生の多くは日本にいて、すでに日本語学校に入っていた人たちだ。日本語の能力が足りないなどの理由で、大学や、専門学校に進学できなかったという。」

現役教員「日本語がおぼつかない人たちもいるという感じになります。単純計算でたぶん1割くらい。」

ナレ「試験は面接と書類審査のみで、2018年度の合格率は99%に上っている。」

ナレ「探し当てた他の元研究生たちも。」

"記者「あの大学日本で誘われた？」

所在不明とされるスリランカ人「日本で」

記者「学校いってるとき？」

所在不明とされるスリランカ人「そう。いい学校っていわれてね。」

記者「入りやすいつてことは言ってた？」

所在不明とされるスリランカ人「そうです」 "

"記者「誰の紹介でとか。」

所在不明とされるネパール人「それは学校の紹介です。」

記者「日本語学校の紹介？」

所在不明とされるネパール人「そうそうそうです」

記者「なんで東京福祉大学を選んだんですか？」

所在不明とされるネパール人「どこも行けなかったから。」 "

"ナレ「問題が、背景に何があるのか。東京福祉大学の現役教員はこう語る。」

現役教員「留学生 30 万人計画っていうのがあったと。一種の留学生バブルが生まれちゃったんですね。」 "

福田康夫首相（当時）「新たに、日本への留学生 30 万人計画を策定し、海外の優秀な人材の大学院、企業への受け入れも拡大していきます。」

ナレ「2008 年、政府は、グローバル戦略の一環として、大学の国際競争力を高めるという目的のもと、留学生の受け入れ拡大を打ち出した。その結果、外国人留学生は近年急増し、目標の 30 万人にほぼ達した。特に増加が著しいのが、大学に入る前の段階の日本語学校への留学生だ。」

"ナレ「留学生政策に詳しい専門家は、こう話す。」

東京工業大学佐藤由利子准教授「2 年間の、日本語学校の勉強が終わってもですね、大学や専門学校で授業を受けられるぐらいの、レベルの日本語が習得できていない学生が増えていると。」 "

ナレ「こうした学生の受け皿となっていたのが、東京福祉大学の研究生制度だった。研究生の学費はおよそ 60 万円。大学の学費収入はこの 3 年間で、12 億円増加している。柴山文部科学大臣は、今週、」

柴山昌彦文科相「日本語能力が足りず、大学に進学できない日本語学校の留学生の在留期間を延伸させるため、名目上、大学の正規課程の研究生として受け入れているそういったビジネスモデルが確立をできてしまっている可能性がある」と、いうふうに理解を致しました。」

ナレ「専門家は教育の質をチェックする仕組みが必要だと指摘する。」

佐藤准教授「予備教育的な部分についても、やはり今まで国の監督と支援が不十分だったと思うので、そこを強化していく必要があると思います。」

ナレ「東京福祉大学は私たちの取材に対して、文書でこうコメントした。」

文書「本学の研究生制度では、本来なら大学合格がまだ難しい、成績が悪かった学生をたくさん救ってきました。今回での所在不明者はそのような救った学生に裏切られた形です。多数の行方不明者を出してしまったことは誠に遺憾であり、本学としても責任を感じているところです。本学としては、これまで以上に留学生のサポート体制を充実させるとともに、今後、受入れ人数の上限を設定する等についても、検討して参ります。」

ナレ「東京福祉大学は、研究生とは別に日本語別科という事実上の日本語学校を東京・池袋と名古屋に設けている。」

ナレ「日本語別科には、海外から直接若者が留学してくる。その一つが東南アジアのミャンマーだ。東京福祉大学はミャンマーに現地事務所を構え、説明会を開くなどしている。現地メディアの取材にこう答えていた。」

東京福祉大学ミャンマー事務所の担当者（吹替）「東京福祉大学は 1 日 4 時間だけ授業があります。それ以外の時間にアルバイトをすることが法的に認められているので、勉強もできますし、お金を稼ぐこともできます。」

ナレ「東京、福祉大学が、留学希望者から質問があれば、日本では国の法律で、1 週間に 28 時間以内アルバイトができることは説明していると聞いています。としている。」

"ナレ「一方、こちらはミャンマー人が運営するヤンゴンの日本語学校だ。」

生徒「何時に起きますか？」

ナレ「ミャンマーでは、日本への留学熱が高まっている」 "

"先生「夜は日本語を何時から何時まで勉強していますか。」

生徒「10 時から 1 時までです。」

先生「えー10 時から 1 時まで？本当ですか？本当？」

生徒「はい。」

先生「素晴らしい」

「生徒（吹替）「日本で医療関連のことを学びたいです。」

生徒（吹替）「日本に留学した後は、ミャンマーに戻って仕事したいと思っています。」

ナレ「東京福祉大学の研究生が、所在不明となった問題はミャンマーにも伝わり、不安が広がっている。」

日本語学校「TIME STUDY」イチョ校長（吹替）「心配しています。東京福祉大学には、ミャンマーの学生もたくさん通っていましたが、今も在籍しています。親もお金をかけて送り出したので自分の子が今後どうなってしまうのだろうととても不安になっています。家や土地を売却して入学費用に充てた親もいたんです。」

ナレ「留学生が所在不明になるのは、東京福祉大学の研究生に限らない。日本の専門学校を卒業し、この春に就職するネパール人男性がその実情を語った。」

ネパール人元留学生（26）（吹替）「私は150万円借金して日本に来ました。私と同じように多くの人が借金をして日本に来ていますが、学業と、仕事の両立が難しく、期限内に返すことができません。」

ナレ「留学生たちの多くは、親や親せきなどから、多額の借金をして日本に来ているため、簡単に帰国することはできないという。」

ネパール人元留学生（26）（吹替）「家族に対する責任や、義務があります。みんな家族に期待され、家族も借金をして送り出しています。ネパールに帰っても借金を返すことができないので、できる限り日本にいたいんです。」

ナレ「留学ビザで滞在している留学生たちの多くは、アルバイトで生計を立てている。許可を得れば、週に28時間まで、働くことができるが、稼いだ金は、借金の返済と生活費に充てるため、実際は28時間以上働いている留学生が多いという。」

ネパール人元留学生（26）（吹替）「最低限の生活をするためには、28時間では足りません。実際多くの人が28時間以上働いています。入国管理局に知られると、ビザが取り消しになってしまうので、みんなごまかしているんです。」

ナレ「そんな中、留学生たちは、アルバイト中心の生活となり、次第に学校にも来なくなる。その後、不法在留状態になるケースは少なくないという。」

ネパール人元留学生（26）（吹替）「私の友人は1カ月半も公園で暮らしていました。犯罪に手を染めたり、自殺したりする人も増えています。すぐに手を打たないと、こうした人達はもっと増えると思います。」

スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。

膳場「取材したTBS社会部寺川記者です。寺川さんあの、所在不明となった元留学生たちは、もともとは就労目的ではなくて、本当に勉強したくて来ているんですね。」

寺川記者「そうですね、あった彼らの多くは、不法就労を目的として研究生になったわけではなさそうでした。むしろ日本にきて真面目に日本語を勉強して、働きたいと、言う風に思ってた人たちなんです。実際にやってみて、夜にアルバイトをして、授業を受けてって言う両立が難しく、フェードアウトしてしまって所在不明になってしまったと。という印象を受けました。」

日下部「これだけ多くのね留学生の所在が分からないのにどうしてこう、放っておかれたんですかね。」

寺川記者「そのビザの申請を行う入国管理局は、大学側が入学を認めているのだから、それは大学が責任をもって留学生を管理するものだという事でビザを出しているということなんです。一方で大学側は、入管が勉強の意欲などをチェックして、受け入れて信頼して受け入れていたと。言う風にしていて、まあ責任のなすりつけ合いのような状況になっていたんです。ただ大学では、研究生の受け入れを当初、内部では、所在不明になるケ

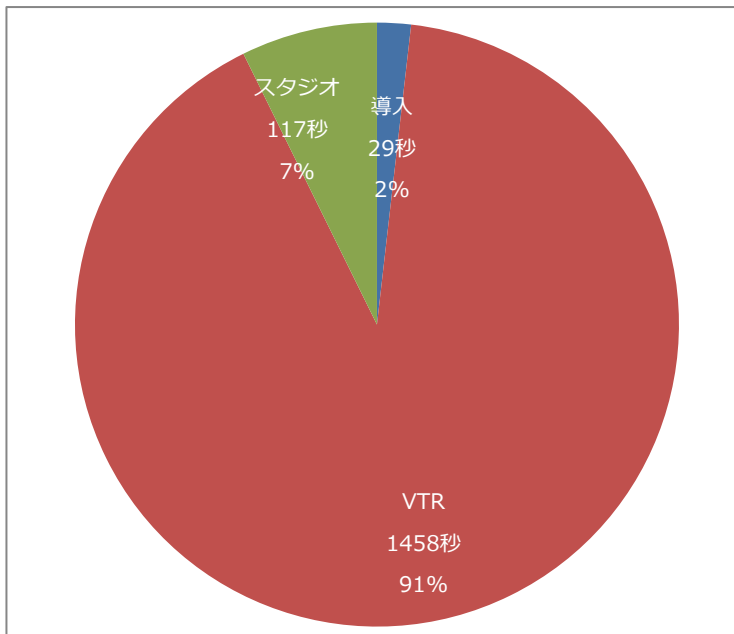
ースが多いということで、問題視されていたということもあります。で一方で文科省も、不明者や除籍者が異常に多いということが分かっているながら、事実上、問題を放置してきたという現状があるということで、」
金平「まああの、東京福祉大の場合はね、あまりにも度が過ぎているように思いましたけれども、背景にあるのは日本の労働力不足という問題ですよ。」

寺川記者「そうですね、あの私が会った所在不明者とされていた研究生は、引っ越しの仕事をしていたんです。で実は何度も何度も訪ねたんですが、夜の 12 時を超えても帰ってこなかったり、朝早朝早くに尋ねてもいなかったり、本当に忙しそうでした。留学生なしでは回らない日本の、日本社会のその一端をみたという感じがしました。」

放送法上問題と考えられる場面は特に見られなかった。

・【特集】 中国最先端都市の光と陰：結論→特に問題なし

技術力の成長著しい中国、中でもその最先端をいく深圳が特集されていた。この特集に当てられた時間は秒で、時間配分は以下の通りだった。



VTR では以下に朱記したように取り上げられていた。

ナレ「今月 15 日、早朝の北京は、冷え込んだ。」

日下部「全人代最終日、人民大会堂の前にはですね、これだけ多くのですね。内外の記者たちが、少しでもいい撮影ポイントを押さえようと長一列ができています。ずーと列が続いているわけですけども、この光景を見るだけでもですね、中国の世界における存在感。これを感じることができると思います。」

"中国人 (字幕)「パスを準備して。」

ナレ「午前 7 時過ぎ、門が開いた。10メートルほど進むたびにプレスカードをチェックされる。」

ナレ「入り口では、顔認証カメラで、事前に登録した写真と照合される。」

日下部「中に入ると、おなじみの光景ですね。大ホールです。大会堂の大ホール」

ナレ「米中貿易摩擦が激化する中、全人代最終日にある法案の採決が行われた。」

日下部「今、外国企業を保護する内容を盛り込んだ外商投資法ですけども、採択されました。」

ナレ「外国企業が中国に進出する際、技術移転を要求されることが頻繁に起きていた。これを禁じたものだ。前

回までの全人代で、高らかに謳われていた中国製造2025。先端技術で世界トップレベルを目指す野心的な産業政策だが、今回言及は無かった。」

中国李克強首相（字幕）「相互尊重ウィンウィンの原則に基づいて、経済貿易を含む中米関係の発展を推し進めます。それは双方の国民の利益に繋がります。」

ナレ「次世代の先端技術を巡り、主導権争いが続く米中だが、中国の技術力とは、どれほどのものなのか。ハイテク産業の最先端都市深圳を訪ねた。」

ナレ「中国・深圳。ハイテク産業の最先端都市だ。」

日下部「えー深圳では去年、改革開放40周年を機にですね、たびたびこういう高層ビルを使ったLEDのライトショー、それが行われていて、市民の目を楽しませています。」

ナレ「元々、小さな漁村だったこの街は、40年前、経済特区に指定されて以降、先端技術の町として、発展を遂げた。去年の域内GDPは、40兆3800億円。ついに隣の香港を上回った。人類史上最速で成長する街とも、言われている。」

日下部「えービルの中の山々が、香港です。そしてこちら側がですね、深圳で一番大きな電気街が広がっています。ここに来ればですね、手に入らない電子部品はない。といわれるほどのところだそうです。かつてはですね、秋葉原がそういわれたような気がしますけれども、なにか遠い昔のような気がします。」

ナレ「子どもがドローンを飛ばして遊んでいた。姿勢やプロペラをAIが制御することで、簡単に操作できるのだ。」

ナレ「世界で、7割以上のシェアを占めるとされるドローンメーカー、DJIはここ深圳の企業だ。」

"日下部「どれが一番最新鋭なんですか？」

社員（吹替）「これが最新の商品です。」

日下部「これ」

社員（吹替）「4つのバージョンがあります。たたむことができます。」

日下部「すごいね」

社員（吹替）「これまでは前だけについていたセンサーがこの機種では、上下、前後、左右の6方向についています。航続距離やスピード、映像の伝達速度も増しました。」

ナレ「深圳では、ドローンを自由に飛ばすことができる。撮影している映像をリアルタイムで見られるゴーグルをつけてみた。」

日下部「あー飛んだ。前に前進してますね。うわー。私たちが写してください。ここです。」

ナレ「顔認証で対象者を自動的にとらえ続ける機能もある。」

日下部「えーちょっと映ってみますね。」

ナレ「一定の距離を保ったまま、撮影するドローン。DJIの広報を担当するシャ・テンチさんは、こう話す。」

シャテンチさん（吹替）「重要なのは、コントロールとセンサー2つの技術で、我々は十数年かけて研究し尽くしました。これは日本が大切にしている精神長い時間をかけて1つのことを完成させるのと同じです。DJIの最大の使命は、大きな商業的成功を収めることではありません。まだ見ぬ技術を開発すること、未来に存在するかもしれない技術を開発することなんです。」

ナレ「農業用や物資輸送用のドローンでも、シェアを広げているDJIショールームには、連日各国から大勢の見学者が訪れている。」

日下部「アメリカなんてドローンっていうと、軍事用のドローンなんかもあるわけですけど、そこらへんはどうなんですかね。」

シェテンチさん（吹替）「軍事とは関係ありません。意識して距離を置いています。仕事に理想を持ったエンジニアが作った会社で、明確な価値観があるからです。善良な人たちによって、社会のために価値を作り出す道具となることを望んでいます。」

ナレ「深圳の南山区。DJI の他、時価総額アジアトップの IT サービス会社テンセントなど、多くの巨大ベンチャー企業が拠点を構え、中国のシリコンバレーとも、呼ばれている。」

日下部「えー深圳の中でも、科学技術の中心と言われているのが、ここ南山区です。そしてここ、留学生創業ビルとありますけれども、海外で学んできた起業家たちのオフィスがこのビルに入っているわけです。」

ナレ「深圳市は海外で得た技術で新たな産業を生んでもらおうと、留学経験者の起業をバックアップ。このビルを相場の半分程度の賃料で提供し、資金援助も行っている。ここで、注目を集める企業がある。様々な電子機器の基盤となる半導体のメーカーだ。中国は、半導体の自給率を現在の 13% から、2025 年までに、70% にするという強気な目標を掲げている。」

ナレ「ここの製品は、世界レベルで戦える中国産半導体として、期待されている。幹部の多くも、留学経験者だ。サイユウキさんは、日本に留学していた。」

サイ・ユウキさん「半導体という業界が我々としては、後発という位置づけです。そういった意味で、ヨーロッパ欧米の企業、日本のそして大手とか、と比べると、まだまだ、追いついている、まあなんとか彼らに近づけようというというのが、今の段階ですね、はい。」

ナレ「ここの、製品は創業 3 年目にして、すでに中国の電気自動車や高速鉄道などで、使用されている。さらに、中国がアメリカと主導権を争っている次世代通信規格、5G、通信速度が最大 100 倍になるという通信網の基地局にも、使われるという。」

ナレ「開発の中心を担うのは、創業者の一人である和巍巍ゼネラルマネージャー。中国の名門精華大学の出身で、イギリスケンブリッジ大学に留学し、博士号をとった。」

日下部「どうしてこう、深圳で起業しようと思ったんですか？」

和巍巍氏（吹替）「イギリスは確かに先進国ですが、工業分野での起業は中国に及ばないと感じました。深圳は全世界の電子工業の都です。多くの電子機器が、深圳で作られています。原材料の購入から、生産、加工、クライアントの獲得まで全てここでできます。短期間かつ、高品質なんです。」

ナレ「深圳では 1 日に 50 件以上の発明や特許が、生まれ、三日にワンフロアのペースで、ビルが建つという。」

蔡雄飛氏「どんどんどん前に進むというのが、まあ深圳のやり方、スタイルなんですね、何か、やり始めるときって、まあ考えるよりはとにかく何か前に進めるというのが、文化なんでしょうね。」

日下部「やっぱりすごいスピード早い？」

蔡雄飛氏「そう、まあ深圳スピードというものですかね。」

日下部「深圳スピード」

蔡雄飛氏「深圳スピード。ほんとにそうですね。」

ナレ「今だ、国有企業が幅を利かす、他の中国の都市と違い、深圳の活力を生んでいるのは、民間企業の若者たちだ。広東省にありながら、町で広東語を聞くことがほとんどないほど、中国全土から、優秀な人材が集まってくる。」

"日下部「1 人ずつ、出身を教えてください。」

男性「江西省吉安です。」

男性「甘粛省です」

男性「広東省梅州です」

"ナレ「彼らが、思い描く、中国の未来は明るい。」

男性（吹替）「中国経済の発展が減速することは絶対にありません。」

男性（吹替）「人口も、優秀な人材も、絶えず、増え続けています。」 "

男性（吹替）「中米貿易戦争によるブレーキは一時的なものです。国の政策にも、企業にも、よい製品を作ろうという決意があります。」

和巍巍氏「我々、中小企業が、世界の大手企業と競争するには、クライアントが受け入れてくれるすぐれた製品が必要です。我々の目標は、世界の一流ブランドの製品を追い抜く次世代の製品を開発することです。」

ナレ「医学や生物学の未来を左右するゲノム研究。深圳はその中心だ。」

日下部「国家、基因庫と書いてありますね。」

ナレ「基因とは、DNA のこと。ここは深圳の郊外にある世界最大規模の DNA バンクだ。中に入ると、巨大なマンモス象が。」

日下部「DNA 研究のなんかシンボルみたいな、動物なんでしょうね。マンモスがね。」

ナレ「ここには、様々な動植物の DNA が保管されている。」

日下部「この施設は、現在のノアの箱舟だって書いてありましたけれども、それは、どういう意味ですか？」

国家基因庫韓昇平プロジェクトマネージャー（吹替）「DNA バンクの使命は、動物、植物、人類、微生物まで、あらゆる遺伝子を保存することです。将来、絶滅したとしても、テクノロジーが成熟していれば、何らかの方法でよみがえらせることができます。」

ナレ「生命倫理に関わることをズバリと語るのは、20 台の若い研究者。ここには、実に 2500 万人分の人のゲノムデータが、解析、保管されている。もちろん世界最多だ。これを基に、病気の治療法など、さまざまな研究が行われている。ゲノム産業でも存在感を増す中国。それを実現させたのが、」

日下部「こちらにあるのがですね、ゲノム解析には欠かせないですね、シークエンサーという機器です。」

ナレ「アメリカが市場を独占していたシークエンサー。その技術を基に中国の企業は独自の製品を開発したのだ。6 割ほどのコストで、アメリカ製並みの性能を実現したという。去年開発された次々世代シークエンサーゲノム解析のスピードは、1 日 60 人分。世界一を誇る。」

ナレ「中国産シークエンサーの開発・製造を行っているのは、バイオ企業、BGI。スタッフは、圧倒的に若者が多い。」

日下部「ちょっと社員食堂というより、なんか学生食堂に来たような、そんな印象を受けます。こうバイオ産業ということで、健康に非常に気を使っているらしいんですね。それで脂っぼいものの値段は若干高め、野菜なんかは若干低めに設定されているそうです。」

ナレ「今や、世界最大のゲノム解析能力を誇る BGI と、国家基因庫。その研究員は、」

日下部「バイオテクノロジーっていうのは、今世界中で技術力の競争が激しくなっていますけども、正直今、中国のレベルっていうのは、世界でどの程度にあると考えていますか？」

韓昇平氏（吹替）「リードする立場にあるとは言えませんが、世界の上位にいると思います。BGI などが、中国の遺伝子研究を、牽引することで、毎年多くの論文が発表されてきました。その数で言えば、中国は上位にいると思います。」

ナレ「次々と、新たな産業が生まれている深圳。それを底辺で支えているのは、出稼ぎ労働者だ。深圳市郊外、リュウカ区にある、巨大な職業紹介所。三和人材市場。地方から出稼ぎ労働者が押し寄せる。」

日下部「えー前のタクシーから大きい、トランク、スーツケースを下ろしてる人がいますけど、この人もたぶん、こう地方からやってきて、この職業紹介所で、なんとか、仕事を見つけようとする人だと思っています。まだ若いね。」

二人ともね。」

ナレ「毎日、大勢の労働者が出入りするため、深圳の正確な人口は把握できない。市場の中へと進む。不法な仲介業者や、身分証を売買する業者が、はびこっているという。」

日下部「暴力団排除というポスターをこの地区では目にしますね。」

ナレ「人材市場で紹介される仕事の多くが、工場や建設現場での作業だ。」

日下部「時給が、だいたい20元以下ですね、15元から20元くらい。」

ナレ「時給、25元を超える仕事となれば、すぐに店員が埋まるという。」

日下部「社会主義の核心って書いてあります。ちょっと皮肉だよな。」

ナレ「市場のあちこちで、勧誘の声が飛び交う。」

"男性（字幕）「お姉さん仕事は見つかった？ご飯と宿も付いてるよ。」

男性（字幕）「仕事を探している方はどうぞ中へ」"

ナレ「交渉がまとまり、募集人数に達すれば、紹介所が用意した大型バスで、現場へと運ばれていく。」

男性「撮るな。殴るぞ。削除しろ。」

ナレ「市場を撮影していた男性が、スマートフォンを奪われ、写真を削除されていた。三和人材市場の中には、職にあぶれ、路上に座り込む人も多い。一方で、遊ぶ金を稼ぐため、何日かに一度だけ、仕方なく働くという人もいる。中国のネット上では、皮肉を込めて三和大神（ゴッド）と呼ばれている。」

日下部「えーとにかく、この辺りはもう、至る所にネットバーと安い宿ですね、それが散在している場所ですね。」

ナレ「三和ゴッドはこうした室のないネットバーで寝泊まりし、金が尽きるまで、ゲームや映画に没頭するのだという。昼間にもかかわらず、どの店もほぼ満席だ。空調が無いため、上半身裸の人もいる。」

日下部「ちょっと入っただけで、こう匂いとですね、なんとも言えないこう、蒸し暑さ。気力のなさげな若者たちが、とにかく席を占領してね、あのモニターを見入ってるというなんとも言えない光景でした。」

ナレ「このまちについたばかりの孔国超さん。35歳。北京の工事現場で、働いていたが、新たな職を求めて、人材市場に流れてきた。儒教の始祖である孔子の末裔だという。」

日下部「どうして、そこの仕事を辞めて、この深圳に来たんですか？」

孔国超さん（吹替）「工事現場の仕事は保証が何もないからです。きついし、疲れるし、危険です。」

ナレ「孔さんの家族は両親とともに、妻、子供が二人。実家は農家で、現金収入は孔さんの仕送りが頼りだ。」

日下部「あー兄弟だ。自由に使えるお金はほとんど残らない？」

孔国超さん（吹替）「家族のために、節約しています。」

"日下部「時給でいうとだいたいどれくらいほしいと思っていますか？」

孔国超さん（吹替）「20元です。」

日下部「大変ですね。もう中国いろんなところに行って、」"

孔国超さん（吹替）「その気があれば、仕事は見つかります。」

"ナレ「孔さんは荷物を引きずり、今夜の宿を探す。」

日下部「テレビ付きで35元から40元。あれが異様だよな。こんなね、こういったらあれだけど、暗くてあんまり清潔そうとは言えない宿にあって、顔認証の端末が置いてあんだよね。」"

日下部「はははっむこう麻雀やってるよ。なかなか混沌とした場所です。」

ナレ「4回の部屋に入れることになったが、エレベーターは無い。」

日下部「ここだ。ジunkerラ（疲れましたね）きれいとは言えないけど、思った以上は清潔な感じですね。あの、バケツに水汲んで、それで流すスタイル。でもこれでも、個別のトイレが付いてるだけ、ましな部屋ってことで

す。」

ナレ「この日は体を休め、翌日から、職を探すという。」

日下部「孔さんにとってですね、例えばファーウェイとか、アリババといった会社はどういうふうに見えますか？」

"孔国超さん（吹替）「有名ブランドの企業です。でも私のようにあまり学歴のない人間は入れません。」

"

"日下部「全く違う世界ですか？」

孔国超さん（吹替）「はい。」"

スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。

膳場「あの先端技術の発展スピード、規模、それからそれをけん引している人の若さに目を見張ったんですけども、あの一自分が日本社会に慣れているせいか、これだけの猛スピードで、これだけの若さで大丈夫かなって思ってしまうことがあったんですね、実際、取材してみて日下部さんどうでしたか？」

日下部「大変そういう部分あると思うんですね。あの一出稼ぎの人を含めるとですね、深圳の平均年齢、なんと28歳と言われてますね。というも、そういう若い人たちのパワーとね、とにかく新たなテクノロジーの分野で世界をリードするんだという産業政策と相まって、現地やっばすごいパワーを感じたんですけども、ただ目的のためには手段を択ばないようなね、そんな危うさもあってですね、その典型的な例がゲノム編集による双子の赤ちゃん。これやったのも、深圳の学者さんですね。まあ私たちが取材したDNAバンク。これもですね、現代のノアの箱舟と言いながら、原発から10キロのところにあって、しかも福島事故の後にできたんですね。」

金平「日下部さんね、くしくも前の特集とね、この特集のテーマが共通しているようなものがあるような気がして、すさまじい格差がかえって経済をけん引しているみたいな、そういう事態ってのがあのような気がして、これで本当にこの、中国の人々っていうのがあまねく、幸せになるんですかね。」

日下部「あの一確かに深圳は新しい街で、古いしがらみがない分、若い人とかですね、活躍する場はあると思うんですけども、徹底的な実力主義、さらに学歴も幅を聞かす、ついていけない人たちは容赦なく蹴落とされるっていう、まあ出稼ぎの町ですから、助けてくれる家族も、友人も周りにはいないということだね、あの一町の中には外国人がなかなか近づけないような部分もあって、社会主義の価値とは、相いれないですね、深い闇みたいなものを感じましたね。」

放送法上問題と考えられる場面は特に見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・【特集】“消えた留学生”を探してみると

スタジオでは留学生の労働力としての側面に焦点を当てた発言が目立っていたが、VTRでは柴山文科相の柴山昌彦文科相「日本語能力が足りず、大学に進学できない日本語学校の留学生の在留期間を延伸させるため、名目上、大学の正規課程の研究生として受け入れているそういったビジネスモデルが確立をしまっている可能性がある」という発言も取り上げられていた。

なぜ、そうしたものがビジネスモデルとして成り立つのか、という点についても今後は特集で切り込むことを期待している。

・【特集】 中国最先端都市の光と陰

VTR 自体は光と陰の両面にスポットを当てていたが、スタジオでのやり取りでは影や闇の部分に焦点を当てた発言が目立っていた。

また、日下部キャスターは「あの一確かに深圳は新しい街で、古いしがらみがない分、若い人とかですね、活躍する場はあると思うんですけども、徹底的な実力主義、さらに学歴も幅を聞かす、ついていけない人たちは容赦なく蹴落とされるっていう、まあ出稼ぎの町ですから、助けてくれる家族も、友人も周りにはいないということですね、あの一町の中には外国人がなかなか近づけないような部分もあって、社会主義の価値とは、相いれないですね、深い闇みたいなものを感じましたね。」と発言していたが、そもそも社会主義の価値とは何であり、どのように相容れないのか、という部分はよくわからなかった。そもそも、現在の中国で社会主義の勝ちを信じている中国人がどの程度いるのかも気になった。